

## 家庭教育学級「織姫☆彦星キャンパス」講座レポート

家庭教育学級 9月学習会

2020年9月11日

令和2年度家庭教育学級「織姫☆彦星キャンパス」が開講しました。

初回講座は、

数秘術カウンセラーの成田徳子先生を講師にお迎えし、

「円満な家族関係づくりに活かす数秘術」をテーマにお話しいただきました。



### 数秘術の基礎知識

数秘術の歴史は長く、いろいろなものと結びついて発展し、改良され、さまざまな種類が生まれたそうです。生年月日や名前から導き出した数字の意味からその人の気質や個性・課題などを読み解きます。人それぞれの違いを理解して、個性を認め合うことでよりよい関係を築くのに役立つツールです。

実際に自分の生年月日から数字をはじき出してみました。

生年月日から「ベースナンバー」「メインナンバー」「チャレンジナンバー」の3つの数字を割り出します。

この3つの数字の組み合わせだけでも1200通りの個性があるそうです。



個人数の計算の仕方や、数字のもつ性質・傾向の説明があり、数字による個性と対応について具体的にお話しいただきました。自分の持っている数字の意味を知るきっかけになりました。

子どもと自分自身を理解するものとして、また、関わり方の気づきになるものとして、今回学んだこの数秘を活用していきたいと思います。

## 家庭教育学級 9月学習会

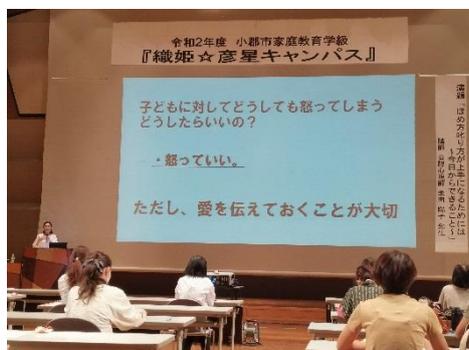
2020年9月25日

2回目の講座は、  
公認心理師の柴田陽子先生を講師にお迎えし、  
「ほめ方叱り方が上手になるためには～今日からできること～」をテーマにお話しいただきました。



子どもの「可能性」を伸ばすには、鍛えてほめること。  
一人ひとりに個性があって、可能性があって、持ち味があるので関わる中で認め合うことが大切。  
「ほめる」とは、ほめて更なる意欲を引き出す。プロセスを見守り、ほめる。  
その子自身を観察することで、見守る中でほめポイントが見つかります。  
「鍛える」とは、子どもがチャレンジしたくなる状況をつくり、子どもをその気にさせる工夫をする。  
チャレンジを見守り、最小限の支援と言葉かけ、諦めない、見放さない配慮が大切です。

情報過多でいろんな選択ができる時代、子どもたちにも自分で考える力を育むことが大事だそう。  
「自分で考えて決めて行動する力を育む」・・・には、  
待つ、見守る、信じる 失敗してもOK ポイントは、チャレンジしたことをほめる！  
相手のほめるポイントを意識して、広い心で受け入れましょう。



また、「怒る」と「叱る」の違いや「ほめる」と「甘やかす」の違いについて、お話を伺いました。  
怒るとは、自分都合で感情的。  
叱るとは、感情をコントロールし、心を込めて相手の状態に合わせて伝える。  
ほめることは、成長(将来の自立)につながるが、甘やかすと成長の機会をうばってしまうとのこと。

ついつい、子どもに対して怒ってしまう・・・

「怒っていいんです」

「ただし、愛を伝えておくことが大切です」と、柴田先生は話されました。

愛を伝えるポイントは、

- 存在の受容「あなたがいてくれてうれしい」「生まれてきてくれてありがとう」
- 信じる「～しなければダメになる」まずはこういう思考を取り外す
- 子どもが困ったときには応援する「一緒に悩み、一緒に考え、子どもを見守る」

愛を伝える一番の方法は、ギュッと抱きしめてあげること。

最後に、自分自身が心の余裕を持って、安心安全の中でリラックスしていることが大事。  
自分自身もほめることを心がけましょう。

今回は、加地市長も参加し、受講者の皆さんと一緒に学びの時間を共有しました。  
子どもとの向き合い方について改めて学ぶ良い機会となりました。

## 家庭教育学級 お父さん向け講座

2020年9月27日

家庭教育学級「お父さん向け講座」を開催しました。

お父さん向け講座では、お父さんの家庭教育への積極的な参加をはかるため親子の触れ合いを通して、父親として子どもとどう向き合っていけば良いのか「親の力」を学びます。全2回講座。

色彩心理伝道師の三原貴実先生を講師にお迎えし、  
「色でわかる！『ぼくとわたしのホントのきもち』」をテーマにお話しいただきました。



私たちはずっと色に囲まれて成長し、生活しています。  
色は非言語コミュニケーションツールとして言葉では伝えられないきもちを表現するのに最適な方法のひとつのこと。  
「色ってなんだろう？」「どうして色できもちがわかるの？」そんな疑問に丁寧にお話しいただきました。

実際に、ぬりえシートを使って自分のきもちを色で表現しました。



色のもつ特徴について、説明があり、自分の色と照らし合わせて納得したり、新たな発見があったりしました。

#### 【参加者の声】

- ・色によって自分と子どものポジティブな面とネガティブな面が分かり面白かったです。ネガティブな面も詳しく説明していただき、気を付けようと思いました。
- ・子どもの今の心理が分かった気がします。的を得ているなと思いました。これから気にして見ていこうと思います。

自分の今のきもちが色に映し出されていたようです。

色彩心理は奥が深く、とても面白い体験でした。

色を通じて、楽しみながら親子のコミュニケーションを育んでほしいと思います。